

日本キリスト教団
長崎銀屋町教会
『週報』

VOL. 127 NO. 48 2019年2月24日
降誕節第9主日



【2018年度 聖句】「わたしは復活であり、命である」

ヨハネによる福音書11章25節

【2018年度 標語】「キリストの命を生きる」

～定期集会案内～

- | | | |
|---------------|----------|-----------|
| ○主日礼拝 | 日曜日 | 午前10時30分～ |
| ○教会学校 幼小科・中高科 | 日曜日 | 午前 9時30分～ |
| ○聖書研究・祈祷会 | 水曜日 | 午前10時30分～ |
| ○夕べの礼拝 | 第2、第4金曜日 | 午後 7時00分～ |
| ○入門講座 | 随時 | |

〒850-0854 長崎市銀屋町1-5 電話・FAX 095-823-0667

牧師：竹内款一 E-mail : ginya_church@ybb.ne.jp

ホームページ <http://www.giocities.jp/ginyamachchurch/>

主日礼拝 次第

2019年2月24日 降誕節第9主日
 司式：西 眞弓 奏楽：直塚真理子
 安川 徹

前	奏		奏楽者
○招	詞	ヨブ記19章25節	司式者
○讚	詠	1-546	一 同
○交	読	詩編103編1~13節	〃
		(旧約：p939)	一 同
○使徒信条		(讚美歌添付)	〃
○主の祈り		(讚美歌添付)	〃
○讚美歌		514	〃
聖書			
		ルカによる福音書5章12~26節	司式者
		(新約：p110)	〃
祈	禱		〃
○讚美歌	教	446	一 同
説		「まるごと受け止めるイエス」	
		竹内款一牧師	
祈	禱		〃
○讚美歌	金	484	一 同
献			〃
○頌	栄	24	一 同
○祝	奏		竹内款一牧師
後	奏		奏楽者
報	告		司式者

○ の印がついた部分ではお立ちいただきますが、立つことの難しい方は座ったままで結構です。

★「讃詠I-546」、「頌栄24」
 「使徒信条」、「主の祈り」などは、
 座席に備え付けのものもあります。
 ご覧ください。

★「交読」は、一節ずつ
 司会者と会衆が、交互に
 読みます。
 最後の一節は全員で
 読みます。

★「讚美歌」は、拡大したのもの
 ございます。ご入用の方は
 受付にお申し出ください。

★「補聴器」、「点字聖書」も
 ございます。ご入用の方は
 受付までお申出ください。

★礼拝堂2階には、
 フリースペースがあります。
 こどもの遊び場、礼拝中の授
 乳や、くつろぎの場としてお使い
 いただけます。

★何か分からない事がありましたら、
 お気軽に受付におたずねく
 ださい。

◇◇◇ 臨時教会総会 公 告 ◇◇◇

日時：2019年3月10日(日)礼拝後 場所：長崎銀屋町教会礼拝堂

- 議題：①2019年度宣教計画および年間標語・年間聖句に関する件
 ②2019年度行事計画に関する件 ③2019年度会計予算に関する件
 ④役員選挙に関する件 ⑤2019年度九州教区総会議員選出の件
 ⑥2019年度長崎地区総会議員選出の件 ⑦その他

※ やむを得ず欠席される方は、『委任状』を提出してください。

今週の祈り

- ◎すべての人にキリストの恵みと平和がありますように。
- ◎被災された方々に慰めと平安を。
日々の歩みが守られますように。
- ◎礼拝に出席できない方をおぼえて、
主の恵みと平安を。

本日の教会学校

- ◇幼小科・中高科合同
説教 奥野政元 奏楽 大岩しのぶ
(9:30～ 記念館2F)

本日の礼拝当番

藤澤裕子 前田恵美 渡部克子

本日の予定

- ◇ティータイム ◇聖歌隊練習
- ◆「地域と教会」伝道協議会
14:00～ 羽犬塚教会
「フィリピン社会と教会のはたらき」
シャル・ガボンリー牧師を迎ええ

次週〈3月3日〉教会学校

- ◇幼小科・中高科合同礼拝
説教 竹内款一 奏楽 大岩しのぶ
(9:30～ 記念館2F)

次週〈3月3日〉主日礼拝

【降誕節第10主日】

- 説教：「分かち合うこと」
竹内款一牧師
- 聖書：ルカによる福音書
9章10～17節
- 交読：詩編46編2～12節
- 讃美歌：7, [聖21-198],
54, [聖21-298], 頌栄27
- 【司式】奥野 多津子【奏楽】直塚 朋子
【礼拝当番】
森 富美 吉田 加奈子 山道 一恵

次週〈03月03日〉礼拝後の予定

- ◇ティータイム ◇聖歌隊練習
- ◇聖餐式 ◇聖歌隊奉仕
- ◇3月定例役員会

今週の予定

◇聖書研究・祈祷会

2月27日(水) 10:30～12:00
ルカ福音書17章1～19節
司会：井形和子

◆世界祈祷日

3月1日(金)13:30～ 平和記念教会
「いらっしゃい、準備は
すっかりできています」
(スロベニアからのメッセージ)
※13:00 からスロベニアの映像を見る
機会があります。こちらもどうぞ。

【牧師予定】

- ・1日(金)…鎮西学院授業

報 告

◎奄美地区から徳之島の〈たんかん〉の贈り物をいただきました。感謝いたします。
『徳之島教会通信』と共にお召し上がりください。

◎「3月予定表」をお配りしています。

◎互助献金、隠退教師献金について

2月末日をもって今年度分をしめて、送金をいたします。ご協力お願いいたします。

◎《熊本・大分地震救援募金》

ご協力をお願いいたします。
※2018年度累計：103,662円(2/17まで)
感謝をもって報告いたします。

郵 便 物

- ◇『キリスト新聞』

主イエスは実にたくさんの“たとえ”を語られた。“たとえ”は原語のギリシア語では“パラポレー”と言い、「並んで投げ出されているもの」と直訳できる。だから、何かを命令しているのではなく、並んで投げ出されているものから、自らが感じ取り、考え、そして自らの決断を生じさせるものだと言える。

「たとえを用いて話す理由」のところに、“「彼らが見ても見えず、聞いても理解できない」ようにするためである”とある。決して意地悪しようというのではない。イザヤ書8:9からの引用だが、いつも神さまが伝えたいことは、隠されていることがあって、この隠されたことを聴いて欲しいのだ。だから「聞く耳のある者は聞きなさい」と大声でイエスは言われたのだった。

この種を蒔く人の“たとえ”には、他にはまざる解読までついている。種とは神の言葉で、道端のものは、いつか御言葉を聞いてもそれが奪い去れる場合。石地のものは、喜んで受け入れても根がないので、試練に遭うと身を引いてしまう場合。茨の中に落ちた者は、途中で思い煩いや富や快楽に覆い塞がれて実が熟すまで至らない場合。良い土地に落ちたのは、立派な心で御言葉を聞き、よく守り忍耐して実を結ぶ人たちだという。

ルカ福音書が伝えるところでは、確かにその通りなのだろう。ただこうも思う。状況や環境で人は変わるけれども、状況や環境を理由にしてダメだと断言してしまわないことも実に大切なことだと、感じ取るのである。

なぜなら、良い土地に落ちた種以外の状況は、おそらく初代教会からはじめてキリスト者が経験してきたことそのものだと、想像がつくからである。だから、この“たとえ”は「良い環境で育つ種のたとえ」とは言えないし、「悪い環境では種は育たない」と言いたいのではないだろう。

道端で踏みつけられようが鳥に食べられようが、石地で渴きをおぼえようが、茨が覆いかぶさろうが、あるいは良い土地であろうが、種を蒔く人は絶望を根拠に蒔くのではなく、希望を根拠に蒔くのである。

そして種を蒔く人が蒔く以上、何人にも、どんな人にも希望を抱いているのである。種ならずとも、道端、石地、茨、良い土地。人は色々な所で生きる。時に、悪しきことに悩み、試練に遭い、あるいは思い煩いや富の誘惑、あるいは

は貧しさから来る苦しみに遭うかも知れない。けれど、種まく人は一つも望みを捨てていない。それどころか、実に蒔き続けるのである。この“たとえ”は他でもない、主イエスによって語られているのだから、そうなのだとと言える。

人というのは、“ロス”を嫌う。時間、手間ひま、無駄だと思える労力、無駄だと思ってしまう状況や境遇、エトセトラ。“ロス”を嫌う。確実な成果を上げられないと、それはダメなことだと結論付けてしまう。残念ながら、特に現代日本の社会では、その感覚が加速しているかも知れない。しかしながら、主イエスは種を蒔き続けているのだと思う。今も。

きっと、主イエスは、道端、石地、茨に落ちた種も、どの一粒もロスとは思っていないことだろう。

主イエスは、その当時の農民たちが手間ひまかけ、手塩にかけて行っていることを少しも否定はしない。汗水たらして働くこと、限られたものを分かち合いまかなうこと、住む場所や耕すべき所を整えること、支え合うために様々な労をとること。いずれも、何の効果のないもの、無意味なことなどと軽んじたりはしないのである。

むしろ、そこで生きる命を祝福するために、種を蒔き続け、神の言葉を蒔き続けるのが主イエスである。そして、どんな事にも“ロス”はないのである。

種まく農民は、蒔いたものが嵐や日照りの他、あらゆる理由で無下にも実らないこともあることを知っている。でも、希望を抱かずに蒔かない農民はいないのである。収穫の実りの喜びは必ずあると信じているのである。ベツレヘムで生まれ、ナザレで育ち、ガリラヤで宣教し、神の言葉を語った主イエスはそれを良く知っている。何一つ“ロス”などないと。

この礼拝では、『わたしたちのたねまき』という絵本を読んだ。ありとあらゆる命が関係し、太陽も、風も、雨も、様々な動物やそして人間。命ある者がかかわる種まきはどれ一つ無駄なことなんてない。その絵本ではイエスは登場しないかも知れないが、イエスの言葉がよく分かる。無駄な種なんて一つもない。あらゆる命が、交じり合って、そもそも豊かなのである。

主イエスは、この“たとえ”を通して、あらゆる所、あらゆる時、あらゆる状況にあって、キリストの命宿る者を祝福しておられる。